

令和3年度 第18回

# 「家族のきずな」

## エッセイ集



文部科学省  
生理学部のマスコット  
「マナビィ」



公益財団法人

モロロジー道徳教育財団

共 催：麗澤大学／麗澤中学・高等学校

後 援：千葉県／千葉県教育委員会／柏市／柏市教育委員会／我孫子市教育委員会／鎌谷市教育委員会／流山市教育委員会  
松戸市教育委員会／柏市PTA連絡協議会／株式会社ジェイコム千葉 東関東局

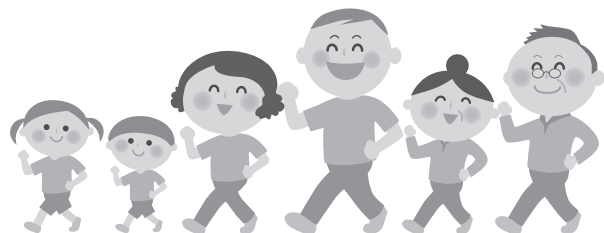
令和3度 第18回  
「家族のきずな」エッセイ集



目次



- 2 ごあいさつ 公益財団法人  
モラロジー道德教育財団 理事長 廣池 幹堂
- 3 講 評 選考委員長  
柏市小中学校校長会 会長 高橋 一夫  
最終選考委員
- 4 入賞・入選作品一覧
- 6 ご応募いただいた小学校
- 7 入賞作品
- 15 入選作品



「人づくり」による「国づくり」を  
モラロジー教育では「3つの心」を育てます。

「思いやりの心」

相手の立場に立って考えることのできる思いやりの心は、人の喜びや悲しみ・痛みへの共感性をはぐくみます。そして、自分を反省したり、相手を許す謙虚さや周囲に奉仕する深いやさしさを育てます。

「感謝の心」

大自然の恵み、また家庭や国の恩恵などに対する感謝の心は、自分の命はもちろん、あらゆる命を大切に尊厳性をはぐくみます。そして、恩返しをしたり社会や世界に貢献していく勇気を育てます。

「自立の心」

夢や志に向かって、主体性を持って生きようとする自立の心は、家庭人、社会人、また国民としての責任感や使命感をはぐくみます。そして、地域や国際社会に目を向けていくたくましさを育てます。

モラロジーとは

モラロジー (moralogy) は、「道德」を表すモラル (moral) と「学」を表すロジー (logy) からなる学術名で、「道德科学」を意味します。日本はもとより世界の倫理道德の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした科学「総合人間学」です。

公益財団法人モラロジー道德教育財団

モラロジー道德教育財団は、倫理道德の研究と社会教育を推進する研究教育団体です。大正15(1926)年の創立以来、「道德で人と社会を幸せに」という指針のもと社会における諸課題の道德的解決に資する研究・教育・出版・福祉事業を展開しています。また、日常の活動を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて取り組んでいます。



モラロジー道德教育財団では、千葉県、千葉県教育委員会、柏市、東葛五市（柏、我孫子、鎌ヶ谷、流山、松戸）の各教育委員会、ならびに柏市PTA連絡協議会、ジェイコム千葉東関東局よりご後援をいただき、今年度で第十八回目となる「家族のきずなエッセイ」募集を行いました。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大防止による状況を考慮し、やむなく中止としましたが、本年は関係者の皆様方の多大なるご協力により、実施することができましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

本年は小学校五年生を対象とし、東葛五市の教育委員会協力のもと各小学校に募集を呼びかけましたところ、千四百九十六編のエッセイが寄せられました。本冊子には、その中から厳正なる審査によつて選ばれた入賞（千葉県知事賞ほか）八編、入選四十二編を掲載しております。

## 講評

選考委員長  
柏市小中学校校長会

会長

高橋 一夫

「家族のきずなエッセイ」に今年も多くの皆さんから心温まる作品が寄せられました。原稿用紙に埋められた文字の向こうに、それぞれのご家族の愛情や思いやりにあふれる情景の一コマを見せていただきました。

現在はコロナ禍で経済的に大きな影響が出た家庭、遠く離れた親族と自由に会えなくなった家庭、リモートで自宅にいる時間が増えたため、家族のきずなが一層深まった家庭や、今まで見えなかったことが見えてきた家庭など、それぞれの家族・家庭の関わり方が問われる時期でもあります。このエッセイで家族への感謝や思いを言葉にして伝えられた皆さんは、とても素晴らしい宝物を見つけることができましたと思います。

これからも自分の気持ちを短い文章に綴っていくことを続けてください。文字は残り、いつかそれは未来の自分や自分のお子さん、そして未来の家族にもつながっていく宝物になります。

素敵なエッセイを寄せてくださった皆さんありがとうございます。そして優しく思いやりに溢れるお子さまを育まれていらっしやるそれぞれのご家族に心から敬意を表します。

たくさんのお子さんより寄せられたエッセイは、家族との心の交流や感謝の心、祖先を思う心、いのちのつながりと大切さなどが素直に表現されていて、どの作品もすばらしく、感動的なものばかりです。ご応募いただいた児童、募集にご協力をいただいた各学校と先生方、ならびに原稿の審査にご尽力を賜りました選考委員の皆様、各団体、協賛企業をはじめとする関係各位にも厚く感謝を申し上げます。

家庭は教育の原点です。家族・親・祖先とのつながりを感じる時、子供たちは喜びと生きる力を得ることが出来ます。このエッセイ募集事業と本冊子に掲載された心温まる作品が少しでも「家族のきずな」を強め、家庭、学校、地域社会が一体となって子供たちの心を育てる機会の一助となれば、まことに幸いに存じます。

## 最終選考委員

選考委員長	高橋 一夫	柏市小中学校校長会 会長
副選考委員長	川原 容一	元柏市立光ヶ丘小学校 校長
選考委員	鈴木 裕太郎	柏市教育委員会 学校教育部指導課 指導主事
	太田 真子	柏市教育委員会 学校教育部指導課 指導主事
	植田 和宏	(株)ジェイコム千葉 東関東局 局長
	橋本 富太郎	麗澤大学 外国語学部 准教授
	川部 翔	麗澤中学高等学校 教諭
	星野 妙三	モラロジー道德教育財団 広報部 部長
	富田 裕之	モラロジー道德教育財団 出版部 部長

# 入賞・入選作品一覧

幸せないっしゅん	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	磯崎 心美
そばにいる事の大切さ	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	伊丹 莉央
妹の手紙	流山市立流山北小学校 5年	猪村 優菜
「おじいちゃんとの大切な時間」	鎌ケ谷市立中部小学校 5年	枝川 あかり
お母さんへの感しゃ	柏市立増尾西小学校 5年	遠藤 愛子
家族のきせき	流山市立小山小学校 5年	近江 祥弥
僕の妹が言ってくれたうれしい言葉	松戸市立上本郷小学校 5年	大沼 柊太
祖父の家	柏市立柏第一小学校 5年	岡部 尋武
お父さんの一言	流山市立流山北小学校 5年	小島 彩昊
わたしの家族!!	柏市立酒井根西小学校 5年	小田島 奈柚
一通の手紙	流山市立小山小学校 5年	小畑 楓花
家族がいる幸せ	柏市立増尾西小学校 5年	小原 妃葵
命の大切さ	鎌ケ谷市立五本松小学校 5年	柏倉 真奈
家族をつなぐ DVD	柏市立高田小学校 5年	鎌田 葵
家族への感しゃの気持ち ……。	柏市立柏第三小学校 5年	河崎 優希
お母さんの一言	柏市立柏第一小学校 5年	北川 遼太
入院中の家族の支え	柏市立名戸ヶ谷小学校 5年	喜多見 咲那
お父さんとのきずな	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	熊倉 莉穂
親子マラソン	鎌ケ谷市立五本松小学校 5年	小出 さくら
家族の大切さ	柏市立柏第一小学校 5年	近藤 咲歩
弟のけが	柏市立柏第一小学校 5年	近藤 奏太
「その時、気づいた」	松戸市立貝の花小学校 5年	佐々木 萌衣
笑顔と家族	柏市立高田小学校 5年	四方 瑞希
その一言をありがとう。	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	島津 真優
「死」を前向きに	松戸市立高木第二小学校 5年	高橋 璃子
僕の兄	柏市立柏第一小学校 5年	田中 駿
私への「愛」は本物	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	中川 愛梨
自まんのおじいちゃん おばあちゃん	鎌ケ谷市立五本松小学校 5年	中村 美優
家族のありがたみ	柏市立酒井根西小学校 5年	中村 友泉
おばあちゃんとの思い出	柏市立柏第一小学校 5年	沼田 あずか
世界に一つ大好きな家族	柏市立柏第七小学校 5年	平山 柚綺
姉がいてよかった	流山市立八木北小学校 5年	松岡 里佐子
がんばった日	柏市立増尾西小学校 5年	三田村 咲和
お姉ちゃんとのつながり	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	宮本 心音
お母さん、ありがとう。	流山市立流山北小学校 5年	吉田 涼菜
たくさんの「ありがとう」	流山市立小山小学校 5年	吉田 ひなの
「泣いていいんだよ。」	柏市立名戸ヶ谷小学校 5年	渡邊 かりん
亡き祖父へ	柏市立柏第八小学校 5年	渡邊 理紗

## \*千葉県知事賞

家族「みんなのありがたさ」

鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年

よこ た みつと  
横 田 暖 仁

## \*柏市長賞

うれしくて、うれしくて

柏市立酒井根西小学校 5年

たん ざわ ゆ づき  
丹 澤 優 月

## \*柏市教育長賞

笑顔のまほう菜園

柏市立旭小学校 5年

くら しな か ほ  
倉 品 夏 帆

## \*柏市小中学校校長会会長賞

コロナで発見！ 家族とのつながり

柏市立柏第一小学校 5年

み き ゆう な  
御 木 佑 菜

## \*柏市PTA連絡協議会賞

家族への「ありがとう賞」

柏市立柏第七小学校 5年

こ ぶね しょう た  
小 船 彰 太

## \*ジェイコム賞

父とリモートばんご飯

鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年

まつ よし よし ゆき  
松 吉 慶 幸

## \*麗澤大学賞

かけがえのない大切なもの

柏市立高田小学校 5年

やま だ とも ね  
山 田 朋 音

## \*モラロジー道徳教育財団賞

ぼくの弟

流山市立南流山小学校 5年

いけ そう へい  
池 創 平

## 入 選

★掲載順=氏名50音順

じいじの余命せんごく	柏市立風早南部小学校 5年	青野 愛海
いつだって家族はそばにいる	柏市立十余二小学校 5年	秋山 瑠南
家族の命の手つないで	柏市立柏第一小学校 5年	石井 一真
祖母の一言	松戸市立六実第三小学校 5年	石嶋 七聖



千葉県知事賞

家族「みんなのありがとう」

鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 五年 横田 暖仁

ぼくには、母、妹、祖父母がいる。いつもぼくを応援してくれる存在だ。ぼくには、先天性の特性がある。それは、「色覚異常」といって赤、緑、茶、むらさき等よく分からないものである。その特性を聞いてぼくはとてもがっかりしたが、家族が色々調べてくれて一しよに取り組んでくれた。

例えば、母とスーパーに買い物に行くと、「苺は赤」「バナナは黄」「ブドウはむらさき」というように実物を見ながら一しよに勉強してくれた。小二の妹は絵の具を選ぶ時そつと教えてくれる。祖父母もこの絵の具作戦を一しよに勉強してくれた。

ぼくは、一番身近な家族が自分の事のように特性を調べ、今出来る事を一しよに取り組んでくれる事がとてもうれしい。その家族のためにも、ぼくも一生けん命色々な色を覚えていきたい。しよう来、人の事を自分の事のように考え、力になれる、そんな大人になりたいとぼくの家族から教えてもらったと思う。



ご応募いただいた小学校

＊ 柏市 (17校)

柏市立 柏第一小学校  
柏第三小学校  
柏第四小学校  
柏第七小学校  
柏第八小学校  
酒井根小学校  
旭小学校  
中原小学校  
酒井根西小学校  
高田小学校  
名戸ヶ谷小学校  
増尾西小学校  
花野井小学校  
十余二小学校  
風早南部小学校  
風早北部小学校  
手賀東小学校

＊ 我孫子市 (2校)

我孫子市立 根戸小学校  
湖北小学校

＊ 流山市 (8校)

流山市立 流山小学校  
八木北小学校  
江戸川台小学校  
鱈ヶ崎小学校  
向小金小学校  
小山小学校  
流山北小学校  
南流山小学校

＊ 松戸市 (11校)

松戸市立 北部小学校  
高木第二小学校  
上本郷小学校  
栗ヶ沢小学校  
柿ノ木台小学校  
古ヶ崎小学校  
八ヶ崎小学校  
貝の花小学校  
新松戸南小学校  
六実第三小学校  
東松戸小学校

＊ 鎌ケ谷市 (7校)

鎌ケ谷市立 鎌ケ谷小学校  
南部小学校  
北部小学校  
西部小学校  
東部小学校  
中部小学校  
五本松小学校

エッセイ応募総数 1,496編 応募小学校総数 45校

柏市長賞

うれしくって、うれしくって

柏市立酒井根西小学校

五年

丹澤 優月 たんざわ ゆづき

二月二十七日は母の誕生日です。私は、母に誕生日プレゼントを渡すことにしました。その名は手伝い券です。すっかりお姉さんになったので、何か手伝いをしようと考えていました。誕生日当日、さっそく母にプレゼントを渡しました。わたしは母にハグをされました。びっくりして母の顔を見ると母は泣いていました。そして、母は言いました。

「ありがとう。大きくなったね。」

それを聞いて私も泣きました。二人で沢山泣きました。それを見ていた父は、ぎゅっと私達をハグしてくれました。その日はみんなで楽しくすごしました。

私は家族の愛を感じました。家族のきずなも感じました。つらいことや悲しいことがあって泣いたりしたけれど、楽しいことやうれしいこと、笑ったこともあって泣いたりもしました。私はこの日がなにより大切に、すごくうれしかった日だと感じています。



笑顔のまほう菜園

柏市立旭小学校

五年

倉品 夏帆 くらしな かほ

「わあ！ たくさんとれたね！」

私の家では家庭菜園をしている。夏野菜、秋冬野菜と種類は様々だが、どれも可愛い子どもたちだ。

ある日、小松菜を収穫する時の事。お母さんは抜いて、私が根っこを切り、お父さんが洗う係で、一生懸命収穫をしていた。私はふと思った。「この作業って一人では大変だな。」一人で抜いて、切って、洗ってなんて忙しい。家族みんなでやったほうがにぎやかに楽しくできると思う。その日のご飯に、小松菜のお浸しができた。

「これさっきとった小松菜？ おいしい！」  
みんな笑顔で食べる。頑張って作った野菜は最高だ。

家庭菜園は私達に笑顔をくれる。失敗もあるけど、それを乗り越えて成功した嬉しさと、みんなで協力できた事で、笑顔に変わる。家庭菜園がくれる笑顔は、私を幸せにしてくれる。



柏市教育長賞

柏市小中学校校長会会長賞

「コロナで発見！ 家族とのつながり」

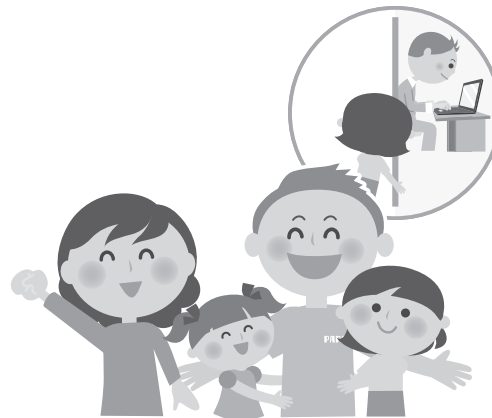
柏市立柏第一小学校 五年 御木 佑菜 みき ゆうな

新型コロナウイルス。誰もが恐れる最悪な感染症だ。でも、私たちの家で絆を深めるには絶好のチャンスでもあったのかもしれない。なぜなら、いつもは帰りが遅い父が家で仕事をしていたり、平日も四人で会話をしたり、ゲームをしたり、テレビを見たり、食事をしたりすることがふえたからだ。

さらに妹であるあやかとは、いつもは休日は外で友達をつくって遊んでいて、二人だけで遊ぶことはあまりなかったが、じしゆく生活が始まり、あまり外へ出て友達をつくるのが少なくなったため、家で二人で遊ぶようになった。

すると、私は気づいた。家で妹と遊ぶ時間も楽しい、物語を創ったり、会話したりするのが楽しいことだと、気づいたのだ。

たしかに、新型コロナウイルスで外へ出られなくなり、残念だったが、その代わりに、私は大きな発見ができたのであった。



柏市PTA連絡協議会賞

家族への「ありがとう賞」

柏市立柏第七小学校 五年 小船 彰太 こぶね しょうた

多くの家族に「ありがとう賞」を送ります。「ありがとう賞」とは、「ありがとう」とほくにたくさん言われた人におくる賞状のことです。多くの家族が受賞しました。

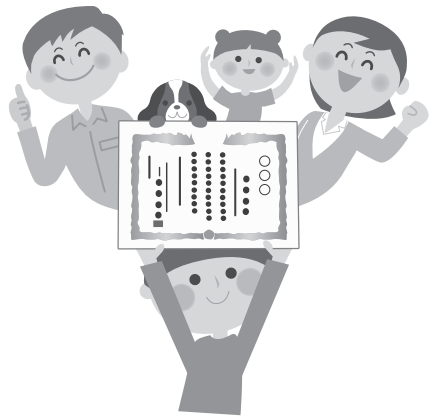
「ありがとう賞」は、いろいろな種類があってみんな別のものを受賞しました。まずお父さんは、「ありがとうお仕事賞」を受賞しました。この賞は、お仕事をいつもがんばっている人が多く受賞します。

次にお母さんは、「ありがとう家事子守り賞」を受賞しました。この賞は、ほくのような小さい子どもを守り、育てている人や家事をしている人が受賞します。

次に妹は、「ありがとうなかよし賞」を受賞しました。この賞は、なかよく、いっしょにあそんだりしてくれた人が受賞します。

最後にうちの犬は、「ありがとう元気賞」を受賞しました。この賞は、自分や他人を元気にしていて人が受賞します。

ほくもだれかに受賞されたいです。



ジェイコム賞

父とリモートばんご飯

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校

五年

まつよし よしゆき  
松吉 慶幸

ぼくの父は、兵庫県に単身赴任中です。なのでコロナ前は、月に一回、単身赴任先のアパートへ会いに行っていました。しかし、コロナで県外へ行けなくなり、父とめつたに会えなくなりました。

塾もオンライン授業になりました。それで、かん単にリモートでやりとりできることがわかり、家でも父とリモートばんご飯をしよう、ということになりました。

毎週日曜日は、父とリモートばんご飯です。父のスマホが古いせいか、接続できてもなかなか声が聞こえません。手のひらを耳に当てて「聞こえてないよ。」というジェスチャーをします。やっと声が聞こえると、まずはコップをカメラに近づけて「おつかれさま」のかんぱいをします。今週あったできごとを話してもり上がります。

後、二週間くらいすると、兵庫県での仕事を終えて、父が家に帰ってきます。家での、リモートではないばんご飯が楽しみです。



かけがえのない大切なもの

柏市立高田小学校

五年

やまだ ともね  
山田 朋音

今年に入って医療関係者の母は三交代になり、朝や夜、家にいないことが多くなりました。母のいない朝は、いつもドタバタしていて、わすれ物をしてしまった日もありました。そんな時に、学年目標が発表されました。学年目標は、「自律」でした。私は、その学年目標を聞いて、はっとしました。私は、「母にたよってばかりではなく、自分のことは自分で、それプラス、学校のことをきちんとできる自分になろう!」

そう思ったのです。

今は、少しずつわすれ物をへらしていきこうとがんばっています。

そして、これからは、一年生から四年生までの全員の、お手本になれるような五年生になりたいと思っています。これから「自律」という言葉を目指して、がんばっていきます。しょうらいは、何事にもよゆうをもって行動できる人になりたいです。



麗澤大学賞



ぼくの弟

流山市立南流山小学校 五年 池創平 いけ そうへい

去年の九月に弟が生まれた。名前は良平。良平のいるところには、家族みんなが自然と集まる。良平がねがえりしたり、笑ったり、おこったり、何かをするたびにみんなが笑顔になる。学校から帰ったときも、手洗よりも先に良平の顔を見にいってお母さんによくおこられる。それでも毎日、帰ったらすぐ良平の顔を見たくなる。お父さんも、四年の弟もみんな同じだ。良平が生まれて笑顔がたくさんふえた気がする。

ぼくは、良平のためにできることはなんでもお手伝いをするようにがんばっている。生まれた時は、小さくてふにゃふにゃして、だっこがこわかったけど、今では泣いている時にはだっこして笑わせようとがんばっている。他にもおふろにいれてあげている。とても楽しい。

これからも、良平にいろいろなことをやってあげるのがとても楽しみだ。みんなを笑顔にしてくれる良平が、ぼくは大好きだ。



モラロジー道徳教育財団賞

じいじの余命せんじふ

柏市立風早南部小学校 五年 青野 愛海 あおの あみ

私が一才の時、祖父は重い病気で後三か月だと余命せんじふを受けました。

私は覚えていませんが、お母さんから聞いた話によると、祖父がショックを受けないように、余命せんじふのことをかくしていたそうです。祖父はそれとも知らず、のんきにタバコをすっていました。それを見たおさない私は、タバコはダメなものを知っていたので、病院に行くたびに祖父への注意やお願いをすると、孫のためだからと聞いていたそうです。

それから、定期的に通い続け、私達と会うことが、祖父にとっては楽しみや病気を治そうと思う希望になり、今となっては、余命せんじふを受けてから十年がたちました。

今では、そのころでは考えられないほど、元気になりました。

今でも、あのころのようにタバコの注意をしながら祖父の長生きを願っています。

いっしょに家族はそばにいる

柏市立十余二小学校 五年 秋山 瑠南 あきやま るな

私は水泳を習っている。進級するためにテストを受けに行った。でも、二〇〇mを泳ぐ級だからとてもこわかった。

どきどきしながらプールに行った。家でお母さんのアドバイスをきいたことを思いだして、練習をした。そうしているとなんだか勇気がわいてきて、家族がおうえんしてくれている言葉がうかんできた。泳ぐ順番がきた。勇気がわいてきたとはいえ、やっぱりきんちようする。そんなときお母さんのすがたが目に入った。私は家族がおうえんしてくれていることを思いだし泳ぎだした。泳いでいる時は、とてもじゅんちようにすすんだ。そして最後の種目のクローリングになって少しうれしくなった。でも苦しいし、つかれている。それでも家族のことを思いだして、全力でがんばった。そしてみごと合かくした。

そしてあらためて家族は自分にとっての一番の宝物で、心のささえだと思った。こんな所に自分はいっぱいあって、すごく幸せだ。

## 家族の命の手しないで

柏市立柏第一小学校 五年 石井 一真 いしい かずま

ぼくだけでなく、だれにでも家族はいます。そして、その家族は自分が生まれる「かぎ」となる人です。

ぼくは自分の身内に、戦争を体験した人がいるか気になったので、お母さんに聞いてみました。すると、ひいおばあちゃんは東京出身で、日本が太平洋戦争という大きな戦争をしていた時に東京大空襲を体験し、爆弾の雨の中、髪が燃えても逃げて生きのびたことが分かりました。ぼくはそれを聞いて、もし命の手が途中で切れてしまっていたら、ぼくはないということを感じ、命の尊さにも気づかされました。

今、ぼくは、お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃんと毎日笑顔で過ごしています。ぼくはその中で、家族が命の手をつないでくれたことや、ぼくを支え、大切に育ててくれた家族の愛情に感謝しています。

ぼくは、これからも大好きな「家族」を大切に生きていきたいと思っています。

## 幸せないっしゅん

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校 五年 磯崎 心美 いそざき ここみ

「もうやだ……。」

私の手の甲に、熱いしずくが一滴おちた。

ある日の出来事。私は、水泳の記録会に行った。コーチに期待をされたので、「その期待にこたえない」と、思った。その後、私は一つ上のクラスにあがることになった。期待されていることもあり、不安でいっぱいになった。

五年生になり、水泳は一つ上のクラスに上がり、プレッシャーをかけられ……いろいろなことが心の重石になった。そして……とうとう、たえられなくなった。母に心の内を話した。不安なこと、辛いこと、嫌なこと……泣きながら、すべてを話した。ふと気づくと、背中に母の手がそえられていた。そして、母は言った。

「話してくれてうれしい。解決はできないかもしれないけど、なんでも相談して。一人でかかえないで。」

家族のありがたさを感じた一瞬だった。

## 祖母の一言

松戸市立六実第三小学校 五年 石嶋 七聖 いしじま ななせ

私は今まで母の手伝いをあまりせずに、すごしてきました。私の家は、母が一人で家庭を支えているため、いろいろな母の手伝いをしなければならなかったのに、まったくしていなかったのです。今考えてみれば、大変苦労していたと思います。そして、気付けな自分がとても情けなく思えました。そんな事を考えていた時祖母に、こんな言葉を言われました。

「お母さんは、たった一人で、家庭のことと、仕事をしているんだよ。それがどんなに大変か考えてみて。」と。

その言葉を聞いた時、目からなみだがあふれました。それは、今まで自分が何もしてこなかったのが、とてもなげけないのと、そんな自分がいやだったからです。その後、私は決意をしました。

大人になったら、母のようなりっぱな大人になって、困っている人や、つらい思いをしている人を助けて、まわりの人からそれいされるような人になると。これからは、家庭のことも考えられるようになるでしょう。

## そばにいる事の大切さ

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校 五年 伊丹 莉央 いたみ りお

二年前にひいおばあちゃん（ふみさん）が亡くなってしまいました。私はふみさんが大好きでした。

百才の時はお皿洗いをしていました。百一才になると動けなくなると、耳も遠くなってしまう。なるべく大きな声で話しかけるようにしました。ふみさんには聞こえないようで、答えはいつもちぐはぐでした。でもいつもうなずいて、ずっと笑顔でした。私がお話ができなくてちよびりさみしかったけど、お母さんが「気持ちちは伝わってるよ。莉央がそばにいるとふみさんいつも笑顔だよ。」と言ってくれました。それからふみさんに遊びに行くとお話ができなくても、ふみさんの所に一番行くようにしました。ふみさんは、私の手をにぎって「よく来たね。かわいい手だね。」と何度も言ってくれました。ふみさんの手はしわがいっぱいだったけれど、優しくとつても心が温かくなりました。もう手をにぎってはもらえないけど、私も他の人にそうしていききたいです。

妹の手紙

流山市立流山北小学校 五年 猪村 優菜

わたしは、妹とケンカをよくしてしまう事がありました。

ある日わたしは、妹と朝からケンカをしてしまいました。そのケンカの時、妹が「お姉ちゃんなんて大きらい。」と言ったのでイライラして「もう知らない。」と言ってしまいました。だからその日一日をききませんでした。

次の日わたしが起きるとふとんの横に手紙がありました。読んでみると自然にうれしい気持ちになりました。

「お姉ちゃんへ」

いつもわたしのせいでごめんなさい。

お姉ちゃんの気持ちも考えないで、わたしのわがままを聞いてくれてありがとう。

ケンカをしたけど、いつもお姉ちゃんなんて大きらいって言ったけど本当は、大ききだよ。」と書いてありました。わたしは、妹に愛されてるなと思いました。妹だけじゃなく、家族みんなに愛してもらえて、わたしは幸せだなと改めて思いました。

「おじいちゃんとの大切な時間」

鎌ヶ谷市立中部小学校 五年 枝川 あかり

新型コロナウイルスのえいきょうで、私はおじいちゃんとおばあちゃんに会うことができず。でも、兄の野球の試合があったので、無理をしておうえんに来てくれることになりました。私はとても楽しみにしていました。

でも、おばあちゃんは具合が悪くなり、急に来ることができなくなっていました。すごく残念だったけれど、おじいちゃんに会えたのでうれしかったです。

いつもみたいにたくさん話すことはできなかったけれど、おじいちゃんの顔を見ながら話をする事ができてうれしかったです。少ししか話せなかったはずなのに、いつもより何倍も楽しくて、何倍もうれしかったです。

今度おじいちゃんとおばあちゃんに会えたら、今までよりも、もっともつと時間を大切にしようと思います。「早くコロナウイルスが終そくして、おじいちゃんとおばあちゃんにいっぱい会いたい。」そう思いました。

お母さんへの感謝

柏市立増尾西小学校 五年 遠藤 愛子

私の家族はいつもおこつてばかりで、いつも「なんで！」とはらをたてていました。

なので、私はなぜいつもおこっているのがふしぎでたまりませんでした。ですがある日、私は車かきているのをしらずに、とびだそうとしてしまいそうになったときお母さんが、おもいっきり私のうでをひっぱりました。そして、びっくりしてお母さんの顔を見あげると、お母さんは安心した様子でした。

私はそのときに「お母さんはいつも私のことを思っておこっていたんだな」とパッ！と思いました。私はお母さんに、

「いつもありがとう。」

とこつと、

「ママこそ、ありがとうー！」

とこつとくれて、とても心が温まりました。そのときに私は、大きくなったら、次は私がお母さんのことを守って、そのおんがえしができるようにがんばりたいと思いました。

「お母さん、いつもありがとう。」

家族のきせき

流山市立小山小学校 五年 近江 祥弥

「よかった。」

静かな病室の中、やわらかい、赤ちゃんの泣き声

がひびきわたっていた。小さくて、よくみえないけど、これが弟なんだ、うれしくて、泣きそうになった。

それから毎日、みんなでお母さんと弟を見に行つた。弟と妹と、赤ちゃんをだいた。

「あと一か月でたいいんだ。」  
一か月後、学校から帰つてくると、お母さんと弟と妹がむかえてくれた。

「おかえり。」  
お母さんは、赤ちゃんをかかえてむかえに来てくれていたのだ。

ふつうのようで、ふつうじゃない言葉に、あつと

うされて、その夜はねむれなかった。  
あの時は、小さかった四人目の兄弟の子が、今では歩けるし、食べられるし、投げられるようになった。

これからもみんなと、一つの命を大切に、楽しんでしようと思つた。



僕の妹が言ってくれたうれしい言葉

松戸市立上本郷小学校 五年 大沼 柊太 おおぬま しゅうた

僕の家族は、とてもやさしくてたよりになる家族です。お父さん、お母さん、妹、僕の四大家族です。お父さんは、勉強で分らないと教えてくれます。お母さんは、おいしいご飯を作ってくれたり、忘れ物をしないように一緒に学校に行くじゅんぴを手伝ってくれたりします。妹は、僕と一緒に遊んでくれます。そして、よくお母さんの手伝いをしていて、やさしい妹だなあと思っています。

僕には、自閉症という障がいがあります。時々、思うようにできなかつたりすると、自閉症に生まれてきたことがいやだなあと思うことがあります。この間、「なんで自閉症なんだ。それがいやだな。」って言ってしまいました。そして妹が「自閉症だっではずしくないし、みんなもきつと助けてあげたり、教えてあげようって思うから大丈夫だよ。」って言ってくれました。僕は、とてもうれしい気持ちになりました。これからも家族みんなで幸せに生きていきたいです。

祖父の家

柏市立柏第一小学校 五年 岡部 尋武 おかべ ひろむ

田舎に住む祖父の家へ、夏休みなどの長い休みの期間中に遊びに行くと、いつも笑顔で祖父や祖母が迎えに来てくれた。冬だったら祖父の家の近くにあるスキー場で遊んだり、季節に関係なく祖父とキャッチボールをしたりできて楽しかった。ほくは長い休みの期間に祖父の家に行くことを毎回楽しみにしていた。

ところが、新型コロナウイルスの流行で、もしも祖父に病気を移してしまったら良くないと思い、田舎へは行っていない。会えばほくも祖父も元気になるかもしれないと思い、本心は会いに行きたいが、我慢して行っていない。しかし、祖父の年齢を考えると何度もこれから先会うことはむずかしいだろう。

祖父に病気を移す可能性をふせぐため会わないこと、直接会って元気を与えること、どちらが本当の「家族のきずな」なのだろうか。正解はないが、これから先ほくは、自分の意見を持ちつつ他人の意見を聞いて正しいと思った考えに自信を持って行動していきたい。

お父さんの一言

流山市立流山北小学校 五年 小島 彩昊 おじま さいら

わたしのお父さんは転動してしまいました。転動すると決まる前にお父さんからは、

「転動してしまつたら、大変だよ。」

と、言われました。わたしは、そのような経験をしたことがなかつたので心配になりました。ある日、お父さんが転動すると決まりました。その事を聞いたわたしは、とても心配でした。(どうしよう。お母さんと妹を手伝えるかな。)と、思っていました。その日の夜に泣いてしまいました。

お父さんが、転動してしまう日が来ました。その日は、習い事の発表会でした。わたしは、全力で取り組みました。お父さんが、行ってしまつ時間になりました。わたしは、かなしくて泣いてしまいました。わたしが泣いてしまつたのを見たお父さんは、「二日一日を大切にね。」

と言いました。その一言は、わたしの心に残るような大事な一言でした。

これからも、その言葉を大事にしたいです。

わたしの家族!!

柏市立酒井根西小学校 五年 小田島 奈柚 おだじま なゆ

母が四十二才の時に、わたしは生まれました。わたしを生むことに、父と母はとてもなやんだそうです。でも、一番上の姉が、

「なやんでもしょうがないよ。何かあったとしても、わたし達兄弟がいるんだから。」

と言ってくれたので、母はわたしを生む事を決心したそうです。わたしが生まれた時は、姉二人と兄二人は、とてもよろこんでくれました。なのでわたしは、五人兄弟の末っ子です。わたしは、姉とも兄とも年がはなれているけど、とても仲が良いです。

父と母がなやんだ時に、姉が言ってくれたので今のわたしがいると思います。今までも、たくさん兄弟にささえられ、大切にしてもらいました。これからは、少しずつでもみんなをささえられたらいいと思います。

わたしは、この家族の一員でよかったです。わたしは、家族がとても大好きです。

## 一通の手紙

流山市立小山小学校 五年 小畑 楓花

わたしには、ふたこの弟がいます。でも、性かくはちつともにていません。兄、しゅうせいには、元気で、ちよつと生意気。弟のけいすけは、内気でこわがりでした。

ある日わたしは、ゴミ箱に折り紙がたくさん入っているの気がつきました。そこには暗号みたいな文字が書かれていました。

わたしが部屋で本を読んでいると、けいすけが部屋に入ってきて、

「ねえね。」

といって小さな紙をわたしました。中にはこんな文字が書かれていたのです。

(ねえねいつもありかとう。おべんきよ)

いつの間にかこんなに字を覚えただと、とてもおどろきました。

しゅうせいが文字を教えて、けいすけが文字を書いていたのです。ごみ箱に入っていたのは全部、手紙だったのでしょうか。

今ではわたしが文字を教えていて、二人とも楽しそうに書いています。

## 家族がいる幸せ

柏市立増尾西小学校 五年 小原 妃葵

家族がいるということは当たり前だと思っていました。ですが、家族がない生活を想像してみると、心になんだか雲がかかったような、さびしく悲しい気持ちになってきます。

以前、こんなことがありました。母が仕事のため、祖母の家に行っていました。祖父の入院していた病院先から、「きとくだからすぐ来るように。」と電話がありました。コロナのため子供は病院に行くことができないので、祖母の家で留守番をすることになりました。

「ごめんね。すぐもどるから待っててね。」

と、祖母は心配そうな顔で私を見つめ病院に向かいました。何時間待っても祖母は帰って来ませんでした。私は、一人でいるさびしさと祖父への心配の気持ちで、泣きそうなくらい悲しい気持ちになりました。

祖母より先に母が帰って来て、とても安心したことを今でも覚えています。

その時、家族がいることは幸せなことなのだと思います。

## 命の大切さ

鎌ヶ谷市立五本松小学校 五年 柏倉 真奈

二年前、わたしはねこをかいました。たまといひます。たまは、その時まだ赤ちゃんだったので、三時間ごとにミルクをあげていました。夜中も明け方も起きてミルクをあげ、家族みんなで手分けをして世話をしました。

ところがある日、とつぜん具合が悪くなってしまいました。病院に連れていくと、病気があることが分かりました。だから薬をあげたり、病院に通ったりする手間もふえ、もつと大変になりました。すると、お母さんが、「あなたが赤ちゃんのころもよく熱を出したりし、具合の悪いときは、一日中だっことしたりして大変だったよ。」

と言いました。その時、わたしは、命をあずかり、育てるといふことは、今まで思っていたよりもずつと大変なことなのだと気がつきました。

お母さん、お父さん、今まで大切に育ててくれてありがとう。これからもわたしは、おん返しをしていきます。

## 家族をつなぐDVD

柏市立高田小学校 五年 鎌田 葵

わたしの家では、大きなお祝いごとがあるごとにDVDをお父さんが作ってくれます。

お兄ちゃんの十才のたん生日では、お兄ちゃんが今まで生きてきた十年間の写真や、ビデオをつなげて記念のDVDにしてくれました。わたしの十才のたん生日にも、わたしが生きてきた十年間をDVDにしてくれました。わたしの笑顔がたくさんあって、面白かったです。

今年の母の日では、お兄ちゃんが生まれてからの、お母さんと子どもの写真をDVDのストーリーにまとめて、みんなで見ました。さらに、そのDVDケースにお兄ちゃんとわたしで感しゃのメッセージを書きました！お母さんは、とってもよろこんでくれました。DVDを見て、わたしもお母さんのことがもつともつと好きになりました。

これからのDVDがとっても楽しみです！そして、もつと家族をつなぐDVDがふえていけばなと思います。



## 家族への感しやの気持ち……。

柏市立柏第三小学校 五年 河崎 優希 かわさき ゆき

私は家族が大好きです。

私に、つらい思いをしながらも命をさずけてくれた人。「お母さん」。

お母さんは命のおん人です。命をかけて産んでくれました。私は「お母さん」が大好きです。

そして、それをささえてくれた「お父さん」。

いつも私と遊んでくれる優しい人です。毎日毎日朝早くから仕事に行ってくれている人。私は「お父さん」が大好きです。

お母さんもお父さんもしかる時はこわいけど、二人とも私の事をいつでも見守り、心配し、そして、優しくしてくれます。お母さんや、お父さんとたまにケンカもしてしまっけれど、私達はすぐに仲直りが出来ます。

周りの人から、お母さんにていいると言われると昔はスゴくはずかしかった。でも今言われるとスゴくスゴくうれしくなっています。何でもか、自分でもよく分かりませんが。

私は、家族が大好きです。

私は、家族を愛しています。

## 入院中の家族の支え

柏市立名戸ヶ谷小学校 五年 喜多見 咲那 きたみ さな

私は六歳の時に手足口病による熱せいでいれんで人生初の入院をしました。入院中は点滴をしながら動けないうえに高熱が続き、本当に辛かったです。

その中でも家族が大変だったのは私の入院中、妹が生後二ヶ月だったということ。お母さんは私に付き添いで病院に泊まらないといけなかった。で、お父さんが仕事の日はおじいちゃんやおばあちゃんも手伝って妹の世話と私の入院生活を支えてくれました。

お父さんは私の気分転換になればと本やパズルを買ってきてくれたり、お母さんは私が寝ている間に家に帰り妹の世話を夕方には病院に戻り夜中は妹の母乳を搾乳したりと、きつとほとんど寝ていなかったと思います。

家族全員の協力があったからこそ私は無事に退院することもできました。私の家族は誰かが辛い時、大変な時に家族全員で支え合いピンチを乗り越えられる最高の家族です。

## お母さんの一言

柏市立柏第一小学校 五年 北川 遼太 きたがわ りょうた

まだぼくが幼稚園に通っていたころ、幼稚園が怖くてなかなか行けず家にいたことがありました。幼稚園に行く前日は大丈夫なのに、いざ行くとなると怖くなってしまいました。自分でも幼稚園に行きたい気持ちもあるけれど、思うように行けませんでした。

ある日の朝、幼稚園に行く三十分くらい前、ふとお母さんがほくに話しかけてきました。

「大丈夫だよ。怖がらなくても。安心して。」と、やさしく言ってくれたのです。

そしてその言葉を聞き、安心して幼稚園に行くことができました。お母さんの一言で、今まで幼稚園に行くのをためらっていたぼくが毎日幼稚園に行けるようになったのです。

もし、あの時お母さんにあの言葉をもらわなければ、幼稚園での楽しい生活も味わえなかったかもしれないし、友達もできなかったかもしれない。あまり今はその日のことを覚えてはいませんが、幼稚園に行けるようになったことを今もものすごく感謝しています。

## お父さんのきずな

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校 五年 熊倉 莉穂 くまくら りほ

お父さんは車で通勤しており、さらに、昨年からの新型コロナウイルスの影響でテレワークが増え、以前よりも運動の機会が少なくなってしまいました。そのため、「健康に不安がある。」と時々口に出すようになりました。私は以前テレビで、ウォーキングで運動不足が解消されると言っていたのを思い出しました。

ある休日の朝、私はお父さんに「一緒にウォーキングしてみるか？」と聞いてみました。すかさずお母さんも「やってみれば？」と言いました。お父さんは「じゃあ、やってみるか。」と言って、その日から始めました。

初めはしぶしぶだったお父さんも何回かする内に、お父さんの方からさそってくるようになりました。ウォーキングの最中はクイズをしたり、じょう談を言ったりしています。今では楽しみのひとつになりました。

今、世の中は大変辛い時期ですが、お父さんとのきずなが深くなったことを少しうれしく思っています。

## 親子マラソン

鎌ヶ谷市立五本松小学校 五年 小出 さくら

私は、二年生と三年生の時に、母と親子マラソンに参加しました。

私と母は目標を決めて、マラソンがとく意な父に練習方法を教えてもらいました。父の練習は、まず長めのきよりを走って体を慣らし、その後決めたペースで走りぬくというものでした。最初は、父のペースがあまりにも速く感じて、ついていけませんでした。だから、母とたくさん練習しました。練習を重ねるにつれ、だんだん父についていけるようになって、自信もつきました。

そして、いよいよ本番当日。父と弟は、私と母をおうえんしてくれました。後半の一番つらいところで、父と弟の声えんが聞こえ、大きな力になりました。私は、父と弟がおうえんしてくれたことや、母がいっしょに参加してくれたことが本当にうれしかったです。

私は、家族と何かにちよう戦することで、家族のきずなを深められたと思いました。また家族で、新しいことにちよう戦したいです。

## 家族の大切さ

柏市立柏第一小学校 五年 近藤 咲歩

三年前の秋、私の妹が入院した。何日間か熱がでて、病院に行くと、その日から、入院になった。いつもいっしょにいた妹が急にいなくなつて、とてもさみしかった。おみまいの日、思っていたおみまいとちがいで、少しはなれた所で手をふるだけで、いつも笑っていた妹が笑っていなくて、心がぎゅゅとなった。入院しても、熱が下がらず、転院することになった。新しい病院にうつる日に少しだけ家によつた。そこで久しぶりに話すことができ、自然な笑顔の妹が見られて幸せな気持ちになれた。

家族全員でいられるのは、あたりまえではなく、とても特別なことで、とても幸せなことだと思つた。いつもいっしょにいと、八つ当たりしてしまうこともあるけれども、このエッセイをかいて、家族はとても大切だと、改めて思つた。これからも家族で健康でいられるようにしたい。

## 入選作品

### 弟のけが

柏市立柏第一小学校 五年 近藤 奏太

ある日、弟と公園に行つて帰るとちゆうのこと：後ろの方で「チャリン」と音がしたのでふりかえると、弟が自転車の近くでうずくまっていた。見ると、おでこにけつこう大きなキズができていた。弟の背中をさすりながら帰ると、家にお姉ちゃんがいる、助けを求めた。そしたら姉は「中学校の保健室に行こう」と言った。その発想はなかったのでビックリした。姉が弟をおんぶして中学校に行つた。保健室の先生に見てもらうと、「何針かぬうね」と言われたのであせつてしまった。その学校の先生が優しく、病院を手配してくれたり、両親に連絡してくれたり、病院に連れてつてくれた。病院につくと、お母さんがすぐに来て、お父さんと妹もすぐに来た。弟はすぐにぬうことができ、今はもう完治した。お姉ちゃんがいたからこそ、治すことができたし、お母さんがすぐに来てくれて安心した。その後は家族みんなで夜ごはんを食べて、いつも通りの毎日になった。やっぱり家族っていいな。

### 「その時、気づいた」

松戸市立貝の花小学校 五年 佐々木 萌衣

お母さんは、常に私のことを考えてくれていた。そう気づいた時、なみだがとまらなくなった。

私がころんで大ケガをした時、病院につれていってくれた。カゼをひいた時、薬を買ってもらつた。

私が落ちこんでる時、「きつと次は大丈夫だよ。」

と、はげましてくれた。私がふざけている時おこつてくれた。いつもおいしいごはんを作つてくれた。洋服を干してくれた。たくさん甘やかしてくれた。お母さんがしてくれたやさしさの分、なみだがあふれた。料理が上手で手芸がしゅみ。勉強を教えてくださいるのが分かりやすく、おこる時はこわい。ずっと、「弟ばかり。」と、私は言っていたのに、お母さんはそんな私をゆるしてくれた。私が、「しょうらい、お母さんみたいになりたい。」と言うと、とつてもうれしそうにする。私はそんなお母さんが、大好きです。「お母さん、いつもありがとう。」

笑顔と家族

柏市立高田小学校 五年 四方 瑞希しかた みずき

私には、妹とお母さんとお父さんがいます。私が生まれたのは東日本大震災の年でした。私は赤ちゃんだったのでお母さんが守ってくれたそうです。

その後、水道の水が飲めなくなりしました。赤ちゃんはミルクが必要なので、お父さんも水を必死に探してくれました。おじいちゃんやおばあちゃん、関西に住んでいる親せきの人たちも、とどけに来たり、送ってくれたりしたと両親から聞きました。その話を聞いた時、今、私がいるのは親せきや、家族のおかげなのだと思いました。また、これからは、私が少しでも助けられるようになり、笑顔を広めていきたいと思いました。

その数年後、妹が生まれました。初めて会った時、心がいっぱいになりました。

今では、毎日家族でほほえみ合い幸せだと実感しています。毎日のくらしで家族の大切さを感じています。小さなことでも感謝の気持ちをわすれずに生活していこうと思います。

「死」を前向きに

松戸市立高木第二小学校 五年 高橋 璃子たかはし りこ

「新松戸に住んでるおじいちゃんが死んじゃったよ……。」

朝の九時ごろ、母にこう告げられた。

「おじいちゃんが……。」

人が死ぬなんて、考えたことがなかった。ましてや身近な人が死ぬなんて、とても考えられなかった。

それに、おじいちゃんはよく入院していたため、今回の入院で死ぬ可能性など、全く考えていなかった。

おじいちゃん……。ふり返ってみると、とても自慢のおじいちゃんだった。高校生のとき、相撲の大会で勝つたらしいし、地元のお祭りにも協力していた。自宅にも賞状が沢山飾ってあった。その送り主も市長であるなど、とにかく自慢のおじいちゃんだった。

だから、おじいちゃん自身も悔いはないだろう。

私だってそんな人生を歩めたらうれし。おじいちゃんに、伝えたい。「みんな、大好きだよ。」「みんな、誇りに思っているよ。」「みんな、自慢に思っているよ。」と。

その一言をありがとう。

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校 五年 島津 真優しまづ まゆう

私は、両親によくこう言われます。

「お父さんは、真優のこと大好きだよ。」

「お母さんは、真優のこと大好きだよ。」

私は、好きでいてくれてありがとうとしか思っていないませんでした。

ですが私は、それ以外のありがとうに気付くことが出来ました。「産んでくれてありがとう。育ててくれてありがとう。つらい時、悲しい時、嬉しい時、一緒にいてくれてありがとう。」私は様々なありがとうに気付いていくたび、家族って良いなとほっとするようになりました。家族とは、とても深く結ばれていて安心できる、温かい存在なのだとかかることが出来ました。家族のありがたさを感じました。

今までは、

「ありがとう。」

としか言えなかったけど、

「ありがとう。私も一人のこと大好きだよ。」

と、変わらせてくれた家族に感謝しています。

僕の兄

柏市立柏第一小学校 五年 田中 駿たなか しゅん

僕には兄がいる。兄とはいつもけんかする。ほんのささいな事で、すぐけんかになってしまうのだ。

「もう、けんかはやめなさい！」

いつもこう言われる。やめる時もあるが、酷い時にはやめない事もある。

だけど、いつの間にか仲直りして、仲良く遊んでいる。兄は、少し僕に意地悪なところがある。一度、家に少し大きな地震が来たことがある。僕は少し心配だったが、兄が落ち着いて指示をしてくれた。そう、いつもはけんかばかりしている、いざという時には助けてくれる、たよれる兄なのだ。よく考えてみれば、生まれてから今まで、何回兄に助けてもらったか分からない。分からない事を教えてくれたり、一緒に遊んでくれたり――。

兄には陰で助けてもらっている。そんな僕や兄を支えてくれるのが、母や父だ。僕はその事を忘れずに、日々を過ごしていこうと思う。



## 私への「愛」は本物

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校 五年 中川 愛梨 なかがわ あいり

「ねえママ、私のことどれくらい好き？」  
私はママに私のことをどれくらい好きか聞いたら、「この世であらわせないくらい大好き。」とやさしい笑顔で言ってくれた。うれしかったけど少しわからなかった。

「ねえパパ、私のことどれくらい好き？」  
パパは、

「パパの命より大事だよ。」

うれしい。けど少しのどがつまる。私は、それで私のためなら自分を犠牲にしても守るっていうことだよね……と思った。

私は改めて家族の愛を感じた、私へのこの「愛」は本物だと思う。ママとパパの私への愛は、ほかのなにより大きく、強いものだと感じる。自分よりも大好きで大切に重い命。私は今幸せだ。周りには、大好きなママにパパにお姉ちゃん。今、近くにいないくても私を愛してくれている人がたくさんいる。私は、だれにも負けないくらい幸せだと感じている。

## 家族のありがたみ

柏市立酒井根西小学校 五年 中村 友泉 なかむら ゆい

私は、五歳の時、病気で一か月ほど入院した事がある。その時は、四〇度の熱が六日ほど続き、ようやく病名が判明して、治療が始まったとき、とても安心したのを覚えている。

それからの入院生活は大変だった。毎朝手の甲に点滴の注射をする。そんなに太い針ではなかったが、細く鋭い針がかえって恐くて、起きれなかった。そんな時、そばで見守ってくれたのが、家族だ。お母さんは一緒に泊まってくれたし、おばあちゃんやおじいちゃんも毎日面会に来てくれた。食欲がなかった時はとても心配してくれたし、逆に薬の副作用でおなかすいてたまらなかった時も、私が好きなサケやハンバーグなどを持ってきてくれた。今思うと、家族はたくさん色々な事をしてくれたのだな、と感じる。

私は無事退院し、今は年一回の通院だけだ。たった一か月だったけれど、家族のありがたみを実感させてくれる出来事だった。

## 自まんのおじいちゃんおばあちゃん

鎌ヶ谷市立五本松小学校 五年 中村 美優 なかむら みゆ

私には、白井市に住んでいるおじいちゃん、おばあちゃんがいます。小さい時からいっぱい遊んでくれる優しいおじいちゃん、おばあちゃんです。

お母さんが大変な時は、おじいちゃんが白井から歩いて鎌ヶ谷に来てくれたり、公園にもよく連れて行ってくれたりしました。

おばあちゃんは、私が食べたいという物は必ず作ってくれます。おばあちゃんの料理は世界一です。おばあちゃんは足が不自由なため、立っては遊べないけど、私が小さい時からすわって、嫌な顔せず何時間もずつと遊んでくれます。おばあちゃんは五年前から理学療法士さんにお世話になっています。私はその姿を見て人を助ける仕事かしたいと思います。二年生から今まで理学療法士の夢を持っています。理学療法士になっていつかおじいちゃん、おばあちゃんにおん返しをしたいです。

## おばあちゃんへの思い出

柏市立柏第一小学校 五年 沼田 あすか ぬまた あすか

私の父方の祖母は、八年前に亡くなりました。

でも、不思議なことに、祖母との思い出は、今でも鮮明に覚えています。家に遊びにきたときに作ってくれたご飯。祖母のしゃべりかた。デパートで買ってくれた洋服。家の庭でやってくれた練香花火や打ち上げ花火など、たくさんあります。それに、祖母の子どもが男二人兄弟だったからか、とてもかわいがってくれたようでした。そのことを母から聞いたとき、私はうれしくなりました。自分のことをとても大切に思ってくれている人がいたからです。

祖母にはたくさん愛を注いでもらいました。ですが、私は祖母に何もおかせしできていません。昔の祖母との思い出をおもいかえすしか私にはできません。

ただたくさん愛を注いでくれた祖母に感謝を伝えたいです。おばあちゃん、いつも私のことをかわいがってくれて、ありがとう。

## 世界に一つ大好きな家族

柏市立柏第七小学校 五年 平山 柚綺 ひらやま ゆずき

私の家族は、皆優しいです。母も父も兄弟もみんな、私の宝物です。

私は四兄弟です。いやだと思ったことはありません。毎日にぎやかで楽しいし、遊んでくれて私はとてもうれしいです。たまにおこられる時もあるけど、それでも大好きな兄弟です。

母と父は、私が学校のことを話している時、母は笑顔でうなずいてくれます。私はその笑顔に、いつも安心していきます。父は、とても優しく、私のことをよく見てくれています。

「大丈夫。柚綺ならきつとできるよ。」  
と、いつも言ってくれて、私はその一言にいつも心強い勇気をもたらしています。でも怒ると、とてもこわいです。そんな所も大好きです。

私の家族は世界にたった一つの家族です。私はこの家族になってよかったですと思います。みんな、みんな大好きです。

## がんばった日

柏市立増尾西小学校 五年 三田村 咲和 みたむら さわ

わたしの弟が産まれる時、母はとてもつらそうにしていたのでこのタイトルにしました。

母が弟を産むため入院した日は、わたしのたんじょう日でした。わたしは母が入院してとても悲しかったんです。なぜかという母がとても大好きだったからです。その夜はねむれませんでした。でも「母がいなくてもがんばろう。」と思いがんばりました。そして弟が産まれた時はかわいいと思ったし、うれしかったです。母と弟が退院した時は「母もいるし、家族もふえた。」と思い、とてもワクワクしました。この日は、わたしががんばったし、弟もがんばったし、母もがんばりました。そして母がいない間、父も祖父もがんばりました。

たんじょう日が一日ちがいの弟が一年生になって今年小学校に通い始めました。弟といっしょにいっしょに一日は楽しいです。今年のたんじょう日といっしょにろうそくを消します。なぜなら同じ日に、お祝いするからです。

## 姉がいてよかった

流山市立八木北小学校 五年 松岡 里佐子 まつおか りさこ

私は今まで、おしゃべりな姉がずっといやでした。なぜなら、いつも姉ばかり話しているのがずるいと思っていたし、姉がいない方が静かではないのかなかと思っていたからです。

でもある時、めずらしく両親と三人だけで夕飯を食べていた時、何だかいつもよりつまらないと感じました。もしかしたら、いつも姉が面白い話をしていいるから楽しい時間になっているのではないかと思いました。

その時、姉はいつも宿題で分からない問題を教えてくれたり、絵を描いている時にアドバイスをくれたり、他にも私のためにしゃべっている時がたくさんあることに気がつきました。姉は自分のことばかり話しているだけではなかったのです。

これらの事に気がついてからは、姉がいてよかったと思うようになりました。おしゃべりな姉だけでなく、妹の私をちゃんと見守ってくれているのがうれしいです。

## お姉ちゃんとのつながり

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校 五年 宮本 心音 みやもと こころ

私にはお姉ちゃんがありますが、会った事も話した事も全くありません。

それは、生まれてすぐに心臓の病気で死んでしまったからです。家には、赤ちゃんのままのお姉ちゃんの写真があります。私はその写真で見た事しかありません。

毎年、誕生日にはケーキとプレゼントを用意してお祝いします。「よろこんでくれているといいな。」と思っています。

私にはお兄ちゃんもいます。お兄ちゃんが生まれ、お姉ちゃんも生まれたから、私がいるのかなと思います。

私の名前は、しんおんと書いて、ここねと読みます。この名前の由来は心臓の音を止める事なく、無事に生まれてほしいという願いがこめられています。お姉ちゃんが生きられなかった分、私には元気に育ってほしいと、お父さんとお母さんがつけてくれました。私の名前にはお姉ちゃんとの命のつながりがあるんだと思いました。



お母さん、ありがとう。

流山市立流山北小学校 五年 吉田 涼菜よしだ すずな

私とお母さんはよくけんかをする。いつもけんかの原因になるのは私なのに、お母さんはいつもあやまってくる。

私は思った。「何だろう。私が悪いのに。」

さっそく私はお母さんとの出来事をお父さんに話し、聞いてみた。

「どうしてお母さんはけんかをして、いつも先に謝ってくるの?」

そしたら、こう言った。

「どうしてだろうね。あなたのことがよっぽど大好きだからじゃない?」

そして私は気づいた。私が原因でもお母さんは私の気持ちを考えてあやまってくれ。自分が悪くないと思ってるのにあやまってくれる。そのことを考えると感謝の気持ちでむねがいっぱいになった。

お母さんにこう言った。「ありがとう。」  
「どういたしまして。」と返ってきた。

たぐさんの「ありがとう」

流山市立小山小学校 五年 吉田 ひなのよしだ ひなの

「うーん、旅行どこにしようかなあ。」

お母さんが家族の思い出を作ろうといういろいろ考えている。わたしは、そうやって家族のためにしてくれていることがすごくうれしい。

一日の中でも、気を付けて見ていけば、感しやすることがたくさんあると思う。例えば、けがをしてしまったときに、「だいじょうぶ?」とほんそうこを差し出してきてくれたり、もつと身近なことだったら、毎日働いてそのお金でえん筆を買ってくれたり、ご飯を毎日作ってくれたり、言いだしたらきりがいいほど家族に支えられている。

毎日のことだからいちいち「ありがとう」と言わない人も多いと思う。だけど、たまには日ごろの感しやの気持ちを全部こめて、「家族のために色々してくれてありがとう。」と言ってみてもいいと思う。絶対に家族は喜んでくれる。

「ありがとう」は、不思議な言葉。言った人も言われた相手もうれしい気持ちになる。

「はらりんらりんだよ。」

柏市立名戸ヶ谷小学校 五年 渡邊 かりんわたなべ

わたしは、以前いじめられてました。毎日学校に行くのがこわくて、行きたくなくて、けびょうで学校をよく休んでいました。

ある日、夜ご飯を食べている時、学校でのことを思いだして、泣いてしまいました。

お母さんが  
「なにかあったの?」

と、心配そうに聞いてくれて、わたしは、学校でいじめられていることを話しました。話せば話すほど、なみだがこみあげてきて、どんどんなみだがでてきて、しゃべりづらくなってきたりもいろいろなことを話しました。全部の話を聞きおわると、

「つらかったね。泣いていいんだよ。なにかあったらまた話してね。」

と言ってくれました。この言葉のおかげで、前より学校に行くのもいやじゃなくなりました。

わたしはあの言葉のおかげで、今も楽しく学校生活をおくれています。

「き祖父へ」

柏市立柏第八小学校 五年 渡邊 理紗わたなべ

「おばーちゃん。なんでおじーちゃんはいないの?」

幼いながらも興味をもち、祖母にたずねた。

祖母によると、飲酒のしすぎだという。祖母は笑っていた。なぜか聞こうとしたが、祖母は話を続けた。「いい人だったよ。」と。後ろには、祖父の写真が見えた。そして四年後、チーンとひびく音の中、私は亡き祖父の写真に向かって「ずっと見守っていてね。」と言っていた。そのとき写真の中で、祖父がふわっと笑ったようにも見えた。たとえ今目の前にいなくても、見えなくても、家族は家族、大切な心の支えであり、銅の物体をやさしく鳴らせば、見えるような気がする。家系の中のたった一人でも欠けていたとすれば、私は今、この地球上に私として存在していなかった。

だから、家族は、たとえ星になっていたとしても、宇宙一大切な存在だと思っ。

# 募集要項

- 応募資格 ▶ 東葛5市(柏・我孫子・鎌ヶ谷・流山・松戸)の小学校に通う5年生の児童。
- 応募方法 ▶ 下のチラシの裏の原稿用紙に、400字以内におさまるように書いてください。  
原稿は、皆さんが通う小学校で集めます。



- 応募期間 ▶ 令和3年5月6日(木)～6月30日(水)
- 賞 ▶ ①入賞 8点 賞状と副賞  
②入選 42点 賞状と副賞
- 発表・表彰 ▶ ①令和3年10月30日(土)  
11:00より入賞ならびに入選作品の発表と表彰式。  
②表彰式では入賞作品の朗読と入選者を紹介。
- その他 ▶ ①応募作品は未発表で日本語のものに限ります。  
②入賞・入選作品に関する著作権は主催者に帰属します。  
③入賞・入選の作品は主催者発行の「エッセイ集」、ホームページ、協賛企業でのパネル展示等にて紹介します。  
④作品中のプライバシー、個人情報に関して主催者は一切責任を負いません。  
⑤入賞・入選作品を公表する際の表記統一など主催者の判断で修正させていただくことがあります。

※ 発表・表彰式は、令和3年10月30日に実施の予定でしたが、コロナ禍のため中止し、入賞・入選者の賞状は各学校へお届けしました。

## 「家族のきずな」エッセイ集

令和3年10月30日発行(非売品)

発行  公益財団法人  
**モラロジー道德教育財団**

〒277-8654 千葉県柏市光ヶ丘2丁目1番1号  
☎04-7173-3111(代)  
<https://www.morology.jp/>

主催者の許可なく転載を禁止します。 6500

# 「家族のきずな」エッセイ集



## 【協賛企業・団体】

50音順・敬称略

(株)アドプランニング

家の光製本梱包(株)

イオンモール柏

(株)岩田印刷

SMBC 日興証券(株)

(株)エヌ・ワイ・ピー

柏市民新聞社

(株)コミニケ出版

さわやか千葉県民プラザ

サンケイ総合印刷(株)

セブンパークアリオ柏

(株)高島屋柏店

(株)とうこう・あい

廣池学園モラロジー事務所

(有)廣瀬造園

(株)星広告

(株)三菱 UFJ 銀行

葉膳料理 龍桂林

横山印刷(株)

リフレッシュプラザ柏

このエッセイ集は皆様からのご寄付を活用して作成しています。  
本事業に賛同いただける方は右のHPよりご寄付願います。

